

安全意識を高めることができる日常の安全指導 ～ 子どもたちを事故からまもるために ～

四街道市立中央小学校 大木 桂太郎

1. 研究主題

安全意識を高めることができる日常の安全指導

～ 子どもたちを事故からまもるために ～

2. 主題設定の理由

① 地理的な要因より

四街道市立中央小学校は、四街道市中央部に位置し、半径500m範囲内に四街道市役所、文化センター、図書館、保健センター、中央公園がある。そのことから、学校周辺の交通量は多い。国道51号線、東関東自動車道へ続く幹線道路に面しており、大型車両がたくさん通行している道を子どもたちは登下校している。横断歩道では信号機が青になっても、しっかり左右の確認を行わないと、交通事故に遭う可能性が十分にある。また住宅街に入ると、細い道を速い速度で走行する自動車も頻繁にみられる。さらに、隣接する市役所の新庁舎建築工事により、これまでに以上に車両の往来が発生している。

以上のことから、子どもたちがいつ交通事故に遭ってもおかしくないといっても過言でなく、より一層の交通安全指導の工夫・改善が求められる状況にある。

② 児童の実態より

校内でけがをする児童の数がかなり多い。原因の一つに児童の「不注意」「注意力散漫」に起因するものが目立つ。例えば、「歩いている（自ら）躓く」「友達とふざけていて、けがをした（させた）」など、一つ注意を払っていれば防ぐことができたであろうと思われるものが多い。このことから、自ら安全な行動をして、他者も含めて自身の身を守る習慣が身につけていないと考えた。また、交通安全指導は「その場」での指導では十分に行き渡らず効果が薄いことが、これまでの経験から裏付けられる。「学校（校内）でできないことは、（登下校をはじめとする）外でできるわけがない」とも考えた。

①②より、校内・校外双方での安全の取り組みを強化し、子どもたちが自分の身は自分で守る意識をしっかりともち、そのことが校内での事故やけがの減少、そして交通事故減少につながると考え、本主題を設定した。

3. 研究仮説

校内外様々な場面において、安全に関する指導や啓発活動を行うことで、自身の身を守る習慣が身に付き、自身の過失や不注意による事故を防ぐことにつながるであろう。

4. 研究目標（目指す児童像）

交通事故や校内でけがをしないようにするための基礎的な知識や技能を身につけ、自ら危険を回避するために適切な行動ができる児童。

5. 研究の内容（研究の手立て）

【今年度より取り組む手立て】

《学校での取り組み》

① 生活委員会、児童会運営委員会児童による、安全啓発ポスターの作成

→いつでも、交通事故や校内でのけがや事故を回避する方法を確認することができ、それらの知識や技能が定着していこうと考える。

② 生活委員会児童による、朝の校内放送（交通安全・校内事故・ルールの遵守）

→登校後の時間帯に放送することにより、登校時の自身の歩き方や交通ルール、マナーを振り返ることができ、正しい歩き方や交通ルールやマナーを遵守する児童が増えるであろうと考える。

《PTA・地域と連携した取り組み》

③ 地区児童会での、危険箇所の発表や共有、PTA 校外指導部やボランティアの方の参加

→子どもたちだけでなく、PTA 郊外指導部やボランティアの方が参加することにより、お互いに考えている危険箇所を共有することができ、危険をより回避することができるようになったり、回避しようとする力が身についたりするであろうと考える。

【これまでの安全指導の工夫改善】（過年度から実施分も含む）

④ 朝の登校指導→下校指導（1列歩行、手を上げて横断）

→職員による登校指導をPTAや地域に、学校は下校指導に特化すれば、どの時間帯も幅広く交通安全を確保でき、児童が危険回避力を身につけていこうと考える。

⑤ 毎週木曜日全学年一斉下校時の下校指導

→学校前歩道や横断歩道上の混雑が発生しやすい毎週木曜日の一斉下校時に、混雑が起きやすい箇所や危険が予測される箇所にて下校指導を行うことで、該当箇所のスムーズな下校と安全が確保され、交通ルールやマナーを守った正しい下校をすることができるであろうと考える。

⑥ 日直職員による下校指導

→特に危険が心配される箇所については、毎日下校指導を割り当てることにより、児童の安全がその箇所について確保されるであろうと考える。

⑦ 1年生職員による付き添い下校指導

→1年間、1年生職員が毎日下校指導を行い、見守ったり安全な歩行の仕方を指導したりすれば、安全な歩行の仕方や危機回避力が身につくであろうと考える。

⑧ Teamsによる職員へのタイムリーな周知

→全国的にニュースになった事案や危険が予測される事案について、素早く全職員に伝えることにより、児童の安全が即座に確保されるであろうと考える。

本校における安全指導の年間計画は、以下のようになっている（４月～７月は実施分も含む）

月	内容
4	避難訓練（地震） 交通安全教室（1・3年生）
5	交通安全講習会（PTA向け） 引き渡し訓練 ① 児童会運営委員会による安全啓発ポスターの作成
6	ワンポイント避難訓練 救急救命法講習（職員） ② 生活委員会による朝の校内放送（交通安全・校内事故・ルールの遵守）
7	水難被害（「離岸流の恐ろしさ」「洪水から身を守るには」について） （動画視聴） 地区児童会（危険箇所の確認・見直し） ③ 危険箇所の発表や共有、PTA 郊外指導部やボランティアの方の参加 不審者対応研修（職員のみ）
8	
9	避難訓練（地震） 竜巻・風雨災害（動画視聴）
10	ワンポイント避難訓練（火災）
11	ワンポイント避難訓練（地震）
12	地区児童会（危険箇所の確認・見直し）
1	避難訓練（火災）
2	ワンポイント避難訓練（火災）
3	3.11ワンポイント避難訓練（地震） 地区児童会（危険箇所の確認・見直し）

6. 研究の実際（仮説の検証）

【今年度より取り入れたもの】

《学校での取り組み》

① 生活委員会、児童会運営委員会による、安全啓発ポスターの作成

子どもたちが交通安全や校舎内の安全やルールについて問題点を話し合い、解決に向けて「ポスターを作ろう」ということで決定した。

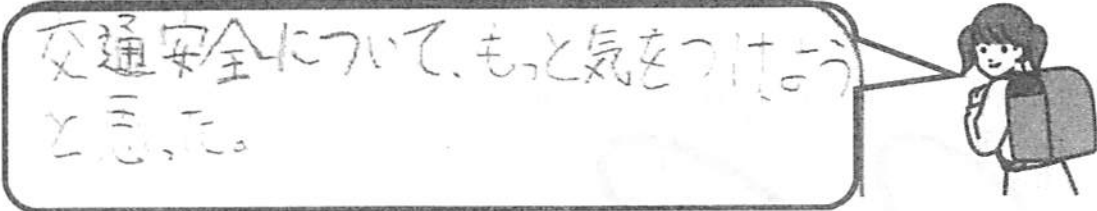
これまで、交通安全や校舎内の安全やルールについては、教師主導での指導が多かった。しかし、一定の成果しか上がらず限界を迎えていたので、今回、子どもたち自身で考える機会を設けた。ポスターを通して学校全体が交通安全や校舎内の安全やルールを守ることができる学校にしようという目標に向けて、出てきた問題点や解決策を呼びかけるポスターを制作し、各クラスに配付した。

その結果、「自分たちが作ったポスター」「友達が作ったポスター」という意識から、交通安全や校舎内の安全やルールについて考える機会となり、実践意欲につながった。併せて、教師も学級活動の時間に、そのポスターを活用して交通安全や校内外の安全に関するルールを守ることにについて指導することができ、結果、定期的に効果的な安全指導をすることにもつながった。（参考資料（1）も参照）



児童会運営委員会制作ポスター

生活委員会制作ポスター

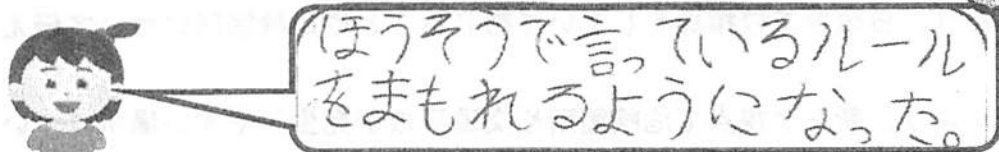
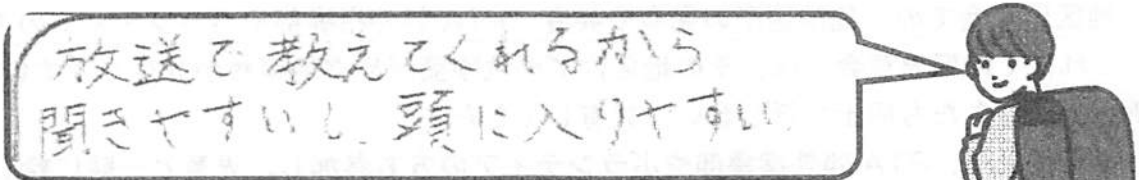


② 生活委員会による朝の校内放送（6月～）（交通安全・校内事故・ルールの遵守）

ポスターと合わせて、生活委員会で毎朝の学級活動の時間帯に、交通安全や校内の安全やルールについてのワンポイント啓発放送を新たに実施した。

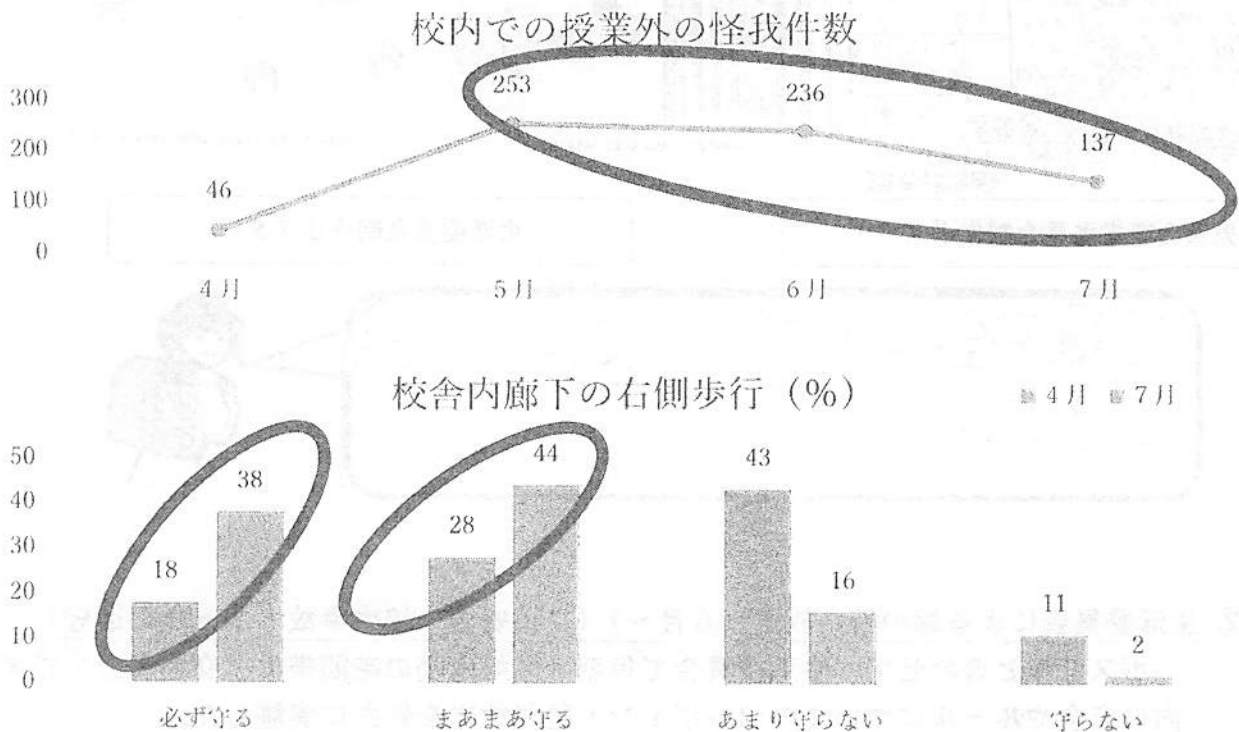
その結果、登校時の歩き方を振り返ることができたり、一日安全に過ごすためのポイントを確認したりすることができた。

また、長々と話すのではなく「ワンポイント」（一言）に絞ったことにより、伝えるべきことが、全校児童に的確に伝わったのではないかと考える。



(本校職員より)
大人が言うより、聞いている子どもたちが「身近なこと」として捉えているようです。話している当人も「守ろう！」という意識が高まっていると思います。

☆①②の取り組みを始めた1か月後の6月より、以下のグラフのように校内におけるけがの件数の減少と、4月と7月を比較し意識面が変化していることから、校内の生活において安全に過ごし自分の身を守ろうとする態度が育ってきたことがうかがえる。



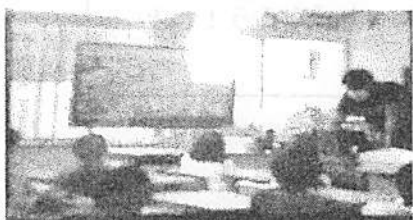
《PTA・地域と連携した取り組み》

③ 地区児童会での、危険箇所の発表や共有、PTA 郊外指導部やボランティアの方の参加
 これまで地区児童会では、その地区内での危険箇所や交通事故が発生しやすい場所を、子どもたち同士で話し合い、共有してきた。

本年度より、PTA 郊外指導部やボランティアの方も参加し、児童と一緒に話し合いに参加したり、日頃登下校指導をされていて感じることや危険箇所について伝えたりした。

そのことにより、新たな視点で危険箇所や交通事故が発生しやすい場所について考えたり、見つめ直したりすることができた。また、参加した PTA 郊外指導部やボランティアの方からは、「普段、見守り活動をしていて、なかなか伝えることができないので、有意義な時間であった」との話もあった。

地区児童会にっみて
 毎朝月、私達の安全をかくんしてしてくれているので、大々加加つ私達が安心して
 道足后をわたれる。



(本校職員より)
 子どもたちが知っている保護者や地域の方という「身近な存在」の方が来てくださったので、話題に上がったことについて「自分のこと」として捉えて、話を聞いていた児童が多かったです。

《参考》 PTAによる児童の安全な登下校への取り組み

(1) 登校時の見守りの拡大

学校との話し合いの中で、朝の登校時、児童の歩き方をはじめ、通学路中にいくつか危険な箇所がある実情を配付物や「マチコミ」で配信し、見守りをしてくださる保護者の方を募ったところ35名の方が集まった。

毎朝見守り活動をしてくださることにより、子どもたちは交通ルールやマナーに気をつけ、けがや事故なく登校することができている、

(2) 登下校見守りボランティアの方の紹介 (PTA管理運営「マチコミ」より)

保護者の方に、登下校見守りボランティアの方を知っていただき、「今まで一番危険だと感じたこと」「保護者に伝えたいこと」を「マチコミ」で配信した。

ボランティアの方の目線から、危険箇所や子どもたちの危険な行動を保護者に伝えることができ、家庭で交通安全について話すきっかけとなった。

【これまでの安全指導の工夫改善】(過年度からの実施分も含む)

④ 学期始めの職員の交通安全指導【朝の登校指導→下校指導】

これまで、朝の登校指導はPTAやボランティアの方とともに職員も行ってた。しかし、交通安全上のルールが守られていなかったり危険が多かったりするのには下校時間帯によく見られること。働き方改革の中で、職員の勤務時間内での取り組みにすること。PTAや地域との話し合いの中で、登校時下校時分業した方が登下校合わせて児童の安全確保ができる。以上の実態や話し合いにより、登校指導から下校指導に切り替えた。



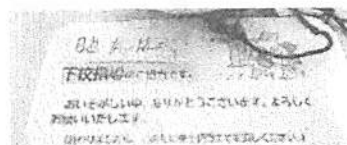
その結果、朝はPTAやボランティアの方、下校時は職員やボランティアの方と分担することができ、登下校の時間帯に大人の目が行き届くようになった。

⑤ 毎週木曜日全学年一斉下校時の下校指導

毎週木曜日は、全学年一斉下校のため、学校前の歩道をはじめ歩道が混雑し、その結果広がって歩く児童が多くなる。また、自動車や自転車、一般の歩行者の妨げになる恐れもあることから、学校前の歩道や横断歩道、要注意危険箇所において下校指導を実施している。

⑥ 日直による下校指導

特に危険が心配される箇所については、毎日職員が付くことで安全確保をする必要があった。そこで、日直勤務の職員を下校時間帯に配置し安全確保を図ることで、これらのことが実現できるようにした。



※④～⑦の下校指導について、参考資料編(2)のように、それぞれの場所における予測される危険や指導のポイントを明示し、職員間で共通理解のもと指導にあたるようにした。



いつも信号の前に先生がいて
安心する。

毎日地区の人や先生たちが、
道路などに立っていて、安心して
登校できる。



⑦ 1年生職員による付き添い下校指導

1年生は登下校に慣れていないことと、安全な下校の仕方を身につけるために、年間を通して1年生職員で方面別に下校指導を行っている。

⑧ Teamsによる職員へのタイムリーな周知

全国的なニュースになった事案や危険が予測される事案について、安全主任がTeamsですぐに周知を図り、その対策法（対応法）について、参考資料（動画）も添付し、学級での指導が円滑かつ全校同一歩調の内容になるようにした。

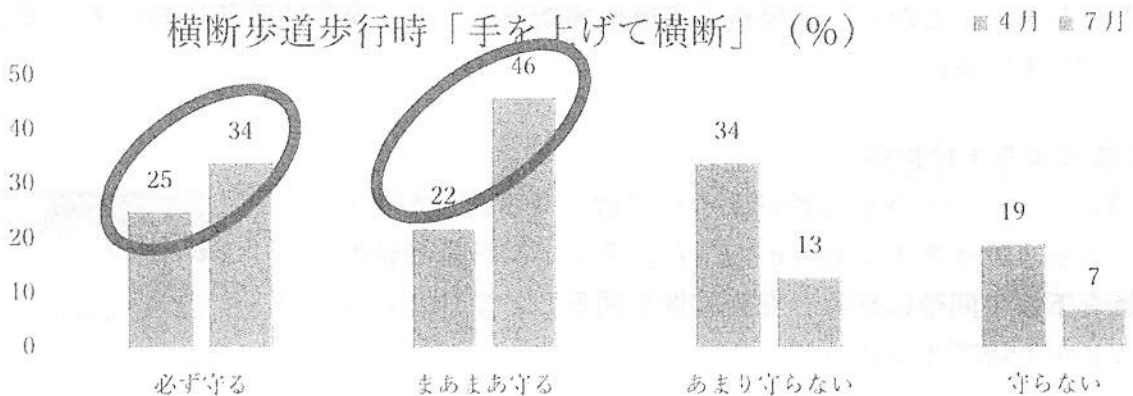
※参考資料編（3）参照

※四街道市内の小中学校では「Microsoft Teams」のチャット機能を用いて職員間の連絡を行ったり、ビデオ通話機能を用いてオンライン授業を実施したりしている。



（本校職員より）
Teamsだと、動画や参考資料も添付されていて、それらは「目で見てわかる」「視覚に訴えることができる」から、どの児童にも、よく伝わっていると思います。

☆①～⑦の取り組みにより、登下校時に横断歩道を渡るときに「手を上げて横断」することについて、児童の遵守率について変化が現れた。



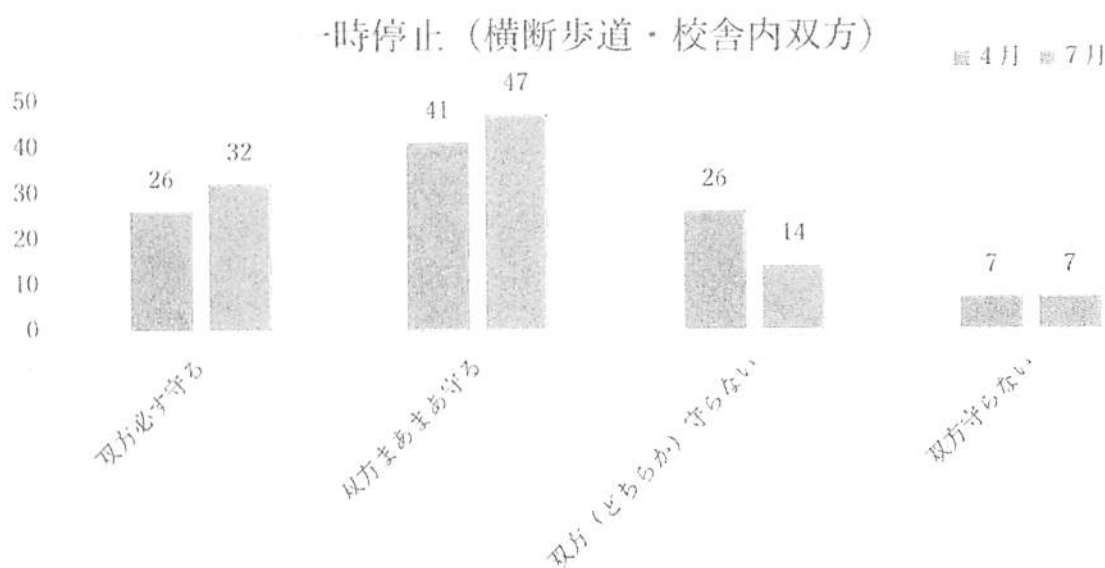
7. 成果と課題

【成果】

- 一つの取り組みだけでなく、校内外あらゆる場面や場所で「安全指導」を行った結果、子どもたちの実践意欲が高まり、行動へと変化が表れてきた。
- これまでの安全指導に工夫を加えたことで、より効果的で子どもたちの実態に即した指導をすることができた。
- PTA や地域の積極的な活動とも、連携を取りながら進めることができ、効果を発揮することができた。特に地域の見守りボランティアの方の忌憚のない意見が、PTA 運営の「マチコミ」を通して配信されたので、教師の立場だと伝えにくいところも、ストレートに保護者に伝わることで保護者の意識も変わり、安全な登下校、交通事故の減少に資することができた。

【課題】

- ・ 依然として教師や PTA、ボランティアの方などの大人が付いていないと、交通ルールを守ったり自分の身を守ったりする行動ができない様子が見られる。それは校内の廊下の「右側通行」等の安全上のルールを守るについても同様である。自分の身は自分で守ることが一人でできるようになるまで、引き続き継続的な指導や新たな手立てが必要である。
- ・ 以下のグラフのように、「一時停止」（一旦止まって安全を確認してから歩行する）の意識が低く変容があまり見ることができなかつた。何のために一時停止が必要なのか、一時停止をしないとどのような危険が想定されるのか、丁寧かつ具体的な指導が急務である。



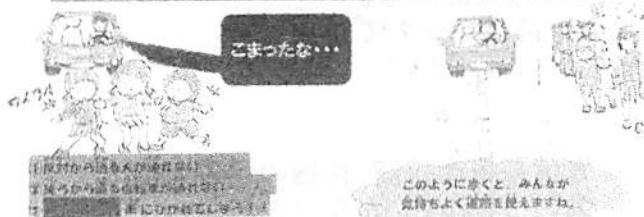
- ・ 今年度に入って、7月までに土曜日や放課後の学校管理下ではないものの、2件の交通事故が出てしまった。交通事故に特化して学級活動を行うなど、一層交通事故に沿った方策が必要である。
- ・ 職員数が減少する中で、これまで通りの人数で同じような取り組みをすることに限界が来ている。今まで以上に効率的かつ効果的に行うことができる安全指導の方策を考えなくてはならない。

参考資料編

(1) 教員制作ポスター (過年度)

中央小学校「國っ子」のみなさんへ
道路は、みんなが使うよ

みんなが安全に気持ちよく使えるようにしたいですね



「事故から逃れたいけれど、
安全な道を歩きたいけれど、
安全な道を歩きたいけれど、
安全な道を歩きたいけれど。」

このように歩くと、みんなが
気持ちよく道を歩けますね。

雨の日

安全に上手に過ごしたいね



命を守る黄色い帽子
正しくかぶろうね!



① 前向きに歩いている人や前向きに走っている人に、自分が歩いていることがよくわかります。
② 正しくかぶって歩きましょう。
③ 大切な命を守ってください。(濡い生地でも、あるのとないのではちがうね)

暑い日も、寒い日も、見守ってくださる方。
感謝の気持ちを伝えることができてほしいね。



見守ってくださるのは、「あたりまえ」ではない... だから、「ありがとう」の気持ちを忘れず

あんぜん
2つそろって「安全」
(1つだけでは、あぶないよ)



あんぜん き たの なつやす
安全に気をつけて、楽しい夏休みを
Be safe and have a good summer vacation.



き
～ 気をつけよう!! ～

安全にお家に帰ることができるように、しっかり守りましょう

- ① できるだけ2人以上で帰らしましょう
(1人になったら、すみやかにお家を目指しましょう)
- ② 不審者などの被害や事件、交通事故に巻き込まれたら、「**パニック!**」
すぐに近くの大人に知らせましょう
(お家に帰ってからではなく、すぐに、その場で、「警察を呼んでください」と言う)
- ③ 交通ルールやマナーを守って歩くこと。



3月10日(木)実施
「3.11ワンポイント避難訓練」

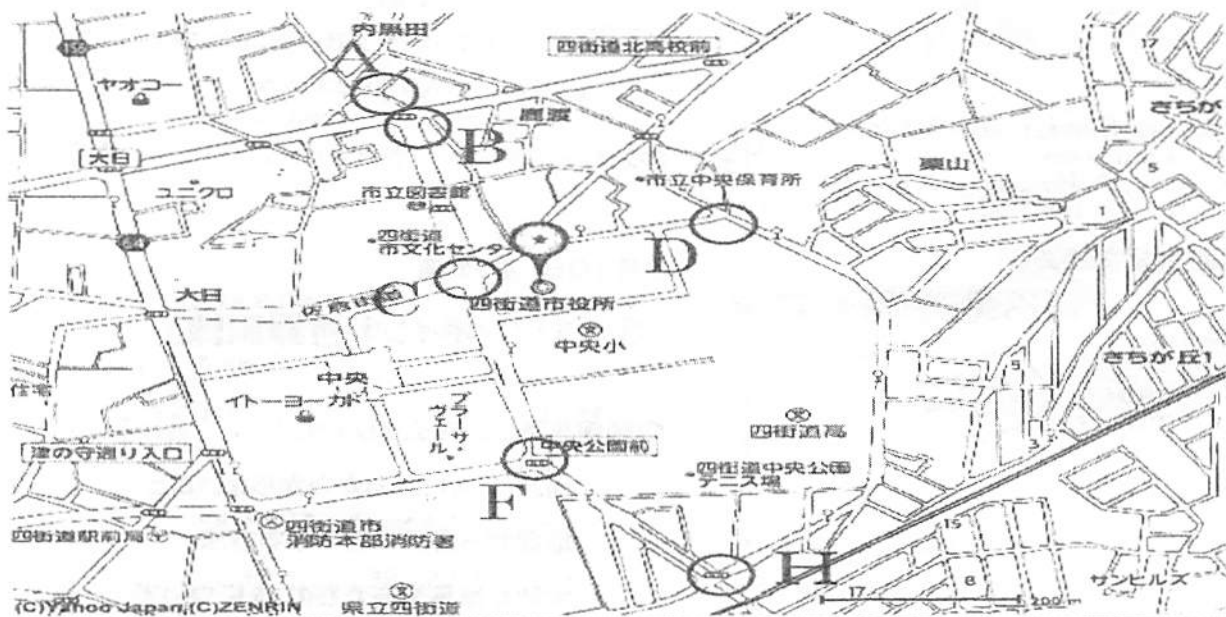
ひなんくんれん
避難訓練
四街道
ハザードマップ
本町
○訓練を通して考えましょう。
地震は、いつくるかわからないこと
地震から自分の身を守る方法
大切な家族や友だちの命について

(2) 下校指導箇所別指導のポイント一覧

指導
場所
と
留意
点

- A 新道坂下十字路**
○道幅が狭い。→ 1列歩行で車通過の際、立ち止まり安全確認
横断の際、右左右と後方の安全確認が必要!
※班が重なり2列になってしまうことがある
- B 新道T字路信号機**
○車の交通量が多く、信号機前での待機 → 1列歩行で歩道に広がらない
感応式の信号が短いので安全確認
※信号待ちのときには列が重なっても良いが、渡り終えた後は2列に
- C 市役所前交差点信号機**
○右左折車が多い。信号を過信し、すぐ飛び出す。→ 青信号後の確認、待機の仕方
前につられていかないように
※信号待ちのときには列が重なっても良いが、渡り終えた後は2列に
- D 企業庁先T字路信号機**
○自動車整備工場方向からの見通しの悪さとスピード出しすぎの車
→ よりよい待機の仕方と横断歩道での確認
※横断歩道を渡る前に、先頭だけではなく、全員が左右を確認する
- F 中央公園前(プラーサヴェール前)横**
○右左折車に注意。運転者の目を見て手を上げる。譲ってもらったときの会釈。
- H 立体交差(うさぎやらーめん前)**
○信号無視の自転車や車に注意 → 横断歩道での左右確認
※信号の変わり目で進入してくる車、車道を走る自転車に注意し、左右確認をして信号を渡る。

交通指導場所



(3) Teamsによる職員へのタイムリーな周知

The screenshot displays the Microsoft Teams application interface. At the top, there are search bars and navigation icons. The main content area shows two chat messages from a user named '大木桂太郎' (Taiki Takaki).

Message 1 (Left):
 Title: 雨の中での交通安全見守り
 Content: 今日のような生憎の雨の中にも、今朝、多くの地域の方が安全の見守りをしてくださっていました。本当にありがたい限りです。せひとも、朝の会や子どもたちと話をしていただき、感謝の気持ちをもつ交通安全意識の向上につなげられたらと思います。朝のお忙しい時間帯で恐れ入りますが、よろしくお願いたします。

Message 2 (Right):
 Title: 床の湿気の危険に伴う休み時間の過ごし方について
 Content: 雨天時は、足元が濡れやすくなって滑倒等中大事故の危険性が高くなります。このような時は、休み時間に入る直前に「やっといい遊び（休み時間の過ごし方）」や「やっといい遊び（休み時間の過ごし方）」を子どもたちと確認してから休み時間に入るようお願いいたします。事故防止のため、ご理解ご協力をお願いいたします。

Message 3 (Bottom):
 Title: 夏休みの安全指導について
 Content: 1. クラス掲示用のポスターを作成しましたので、ご活用ください。
 2. 夏休みの生活・安全指導に活用できる動画を、いくつか見つけたのでご活用ください。
 ① 水難事故対策
 【海と日本プロジェクト】2020年7月1日公開「B & G 水辺の安全紙芝居、小学生に最適！身近な水難から身を守るための15分動画」
 ② 不審者・オンラインゲーム・自転車事故対策（山梨県警のものですが、夏休みが8月1日からと言っていますが・・・）
 高アルファ署「安全く楽しい夏休みを！」
<https://www.youtube.com/watch?v=Ua85qecsvq>
 参考動画
 【海と日本プロジェクト】2020年7月1日公開「B & G 水辺の安全紙芝居...
 子どもたちに、もっと水辺の自然体験をして欲しい！そんな思いのもと、私たちブルーノード・グリーンランド（B & G）財団は、自分の身を守る「セルフレスキュー」の知識と...
www.youtube.com

The left sidebar shows the navigation pane with the following items: 77件の通知、すべてのチーム、中央小学校_日報、ホームページ、Class Notebook、授業、課題、成績、Reflect、insights、チャンネル、一般、タイムライン用、給食室から.